



# 廿日市市教委だより

平成31年

4月1日

第1号



～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

市教育委員会では、今年度も学校の魅力あふれる取組や関連情報を掲載した「市教委だより」を発行し、積極的に情報発信していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

## 奥典道教育長 平成31年度教職員辞令交付式 訓示



誰もが快適に暮らすことができ、豊かな文化が花開くまち・廿日市の象徴として、「市の木」にも選定されている桜も、その美しさを感じる頃となりました。

「桜梅桃梨（おうばいとური）」という言葉があります。「桜は桜らしく、梅は梅らしく、桃は桃らしく、梨は梨らしく花を咲かせ実をつける。人も同じように、それぞれの持ち味を活かした生き方をしなさい。」という教えです。人の生き方には、どんな生き方がより優れているということはありません。それは、桜と梅のどちらが優れているかと議論するようなものです。

人にとって一番大事なことは、自分の持ち味を活かした生き方をすることではないでしょうか。教職での生活においても、忘れがちですが大切な視点だと思しますので、最初に申し上げておきます。

ここにおられる、本日の辞令交付式を迎えられた138名の教職員の皆様におかれましては、初めて廿日市市へ転任して来られた方、市内異動の方、また、新規に採用された方など、異動の形態は様々ですが、4月1日付けで廿日市市内のそれぞれの学校に赴任いただきました。

皆様方には、これまでの経験と先程申し上げましたように自分の持ち味を生かし、廿日市市の子どもの教育に力を注ぎ、市民の負託に responding いただきますよう、お願いします。

さて、本日はここにお集まりの皆様へ、市教育委員会の取組について4点お話しします。

1点目は「主体的な学び」についてです。

昨今の学校教育では、子どもたちが新しいことや困難なことに会っても、自分の力で乗り越えていける力を育てるために、先生方の日々の授業を変えていくことが強く求められています。

これまで、子どもたちが自ら進んで学べるように授業改善に努力いただいているところですが、子どもたちが「受ける」授業から「参加する」授業へと、「廿日市の授業が変わってきたな。」と皆が実感できる取組を行っていただきたいと思います。

市教育委員会としましても研修や学校訪問等を通して、学校の取組をしっかりと支援してまいります。また、本市では、「地域を知り、世界とつながる活動づくり」についても力を注いでいるところです。

地域を知る活動としては、市内全ての学校でふるさと廿日市に愛着と誇りを持つために「ふるさと学習」に取り組んでおり、昨年度は3月16日に開催した「ふるさと学習発表会」において、市内全27小中学校がステージ発表や展示発表で地域の実態や発達段階に応じた、魅力的な発表を行っております。

また、世界とつながる活動としては、台湾基隆市やオリンピック・パラリンピックのメキシコ代表チームとの国際交流などを通して、グローバル化への対応を進めているところです。

これらの取組等は、これからの学校教育に求められる大切な取組だと考えております。

2点目は、「子どもたちに寄り添い心を育てる教育」についてです。

まずは、平成27年度から本市が推進する「つながり支援プロジェクト」を一層充実させていくことが重要であると考えております。「つながり支援プロジェクト」とは、子ども同士のかかわりを意図的に設定し、認め合える集団づくりを通して、子どもの自己有用感を高めることを目的とし、具体的には「明日も行きたくなる」学級づくりを進め、また、問題行動の未然防止を図るものであります。

ところで、昨年度の調査結果によると、本市小学校における暴力行為発生件数は、過去最多であった平成29年度の発生件数のおよそ1.3倍の発生件数となり、小学校の暴力行為については、緊急事態であると捉えています。

いじめの認知件数においては、全国並み以上に多く認知しています。これは、小・中学校とも、初期段階のいじめも認知するなど、いじめを定義に沿って正確に認知できている成果でもありますが、いじめ防止に向けた学校組織を挙げての取組が求められています。また、不登校についてですが、中学校において過去最多となっており、この状況を深刻に受け止めています。

私は、何よりも学校は安全で安心できる場所であってほしいと思っております。全教職員がこれらの課題克服に向け、全力で取り組んでいただくことを強く願っております。

そのため、今年度のプログレス研修では、暴力行為・いじめ防止・不登校への取組について研修を深め、児童生徒の状況把握とそれを踏まえた対応の仕方について具体的に考えていくこととしています。

3点目は、「学校における働き方改革」についてです。

ここにおられる皆様方がそうでありますように、より複雑化・多様化した状況への対応や取組の充実を図るため、学校では、日々教職員が子どもたちや保護者、地域と向き合い、誠実に業務に当たっていただいています。

しかし、その一方で、勤務時間外の教職員の長時間勤務の実態が明らかになっており、その疲労や心理的負担の蓄積は、教職員の心身の健康に影響を及ぼし、様々な教育活動の質の低下につながるものが危惧されているところです。

市教育委員会では、「子どもたちの笑顔を守るのは私たち」の言葉を大切にしています。

その実現のためにも、教職員自身が健康で、意欲や誇りをもって子どもたちと向き合うことが、子どもたちの成長には欠かせません。

未来を担う子どもたちのために、市教育委員会と学校及びその関係者が、「学校における働き方改革」の理念を共有し、連携・協力しながら本年3月に策定しました「学校における働き方改革取組方針」を推進してまいります。是非、この取組方針を熟読いただくとともに、校内等で論議し実行に移してください。

4点目は「地域学校協働活動の充実」についてです。

平成21年度に学校支援地域本部の活動がスタートし、平成30年度には市内小学校17校、中学校10校のすべてに設置することが出来ました。今後は、現在の体制を基盤として、地域と学校がより連携・協働する地域学校協働本部により地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える取組を進めます。これにより、子どもたちには「地域への理解や関心の深まり」を、地域には「地域の教育力の向上、地域の活性化」をめざし、「学校を核とした地域づくり」を推進してまいります。

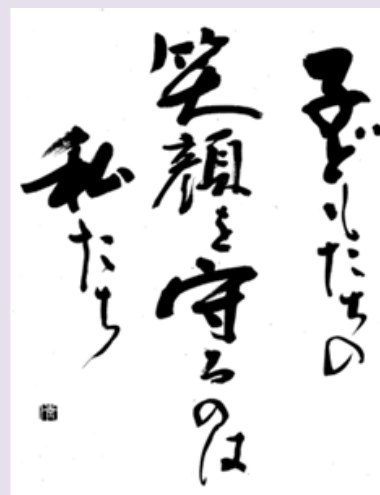
いくつかの点を申し上げましたが、皆様にはぜひ職場に新しい風を吹き込んでいただき、「子どもたちが自ら進んで学ぶ教育」や「子どもたちに寄り添い心を育てる教育」などを「チーム廿日市」の一員として推進していただきたいと思います。

ところで、廿日市市の教育の特色は何かと問われれば、私は、「教職員が実に丁寧に、子どもに寄り添い指導にあたっている。保護者、地域の皆様にも誠実に対応していただいている。」と答えています。

子どもの多様化、保護者の学校への過度な期待など、学校が直面する難しい状況も多々ありますが、相手に対する丁寧さ、寄り添う気持ち、誠実な対応の3点には心を注いでいただきたいと思います。

おわりに、「異動は、最大の研修である」という言葉があります。皆様一人一人の異動に、大きな意味があるのです。今回の異動は、自分が更に大きく成長する、大きく変わるチャンスでもあります。是非ともこのチャンスを生かして欲しいと願っています。

どうか、皆様のお力により、廿日市市の学校で学んでよかった、また学ばせてよかったと思える学校づくり、そして、次代の地域社会を支え、限りない未来のある子どもたちの教育のために尽力いただきますようお願いしまして、訓示とします。



平成31年4月1日

廿日市市教育委員会教育長

奥 典道